

第2期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略 かわら版【令和2年度の取組】



人口減少、急速な高齢化・・・



2065年、 多摩市はどうなる!?



多摩市の将来は
どうなるのかニヤ!?



にゃんともTAMA二郎



© 多摩市

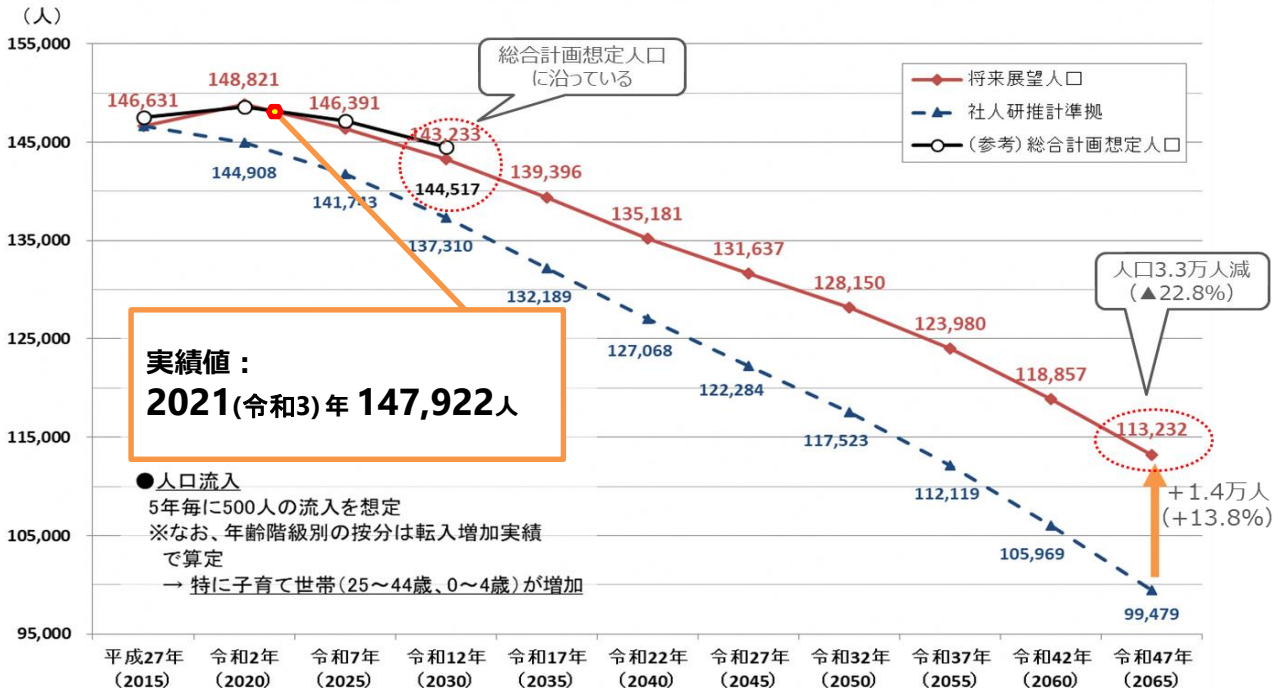
にゃんともTAMA左衛門

多摩市では、「人口減少」や「急速な高齢化」への対応策として「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を令和2年度に改定しました。この戦略では、4つの基本目標・2つの横断的な目標のもとに、様々な取組を進めてきました。

第2期総合戦略1年目となる令和2年度の取組実績を報告します。

多摩市の人口の推移

～近年は微増傾向、2021(令和3)年は前年度から若干減少～



※各年10月1日時点での人口、出典 多摩市の目標(将来展望人口):国勢調査、実績値(令和3年10月):住民基本台帳人口

将来的には人口減少が見込まれる中でも、多摩市の人口は、大規模マンションの竣工等による転入増により、**微増傾向**にありましたが、過去最高の人口であった2019(令和元)年の人口(148,865人)と比べ、2021(令和3)年の人口は**147,922人**となり、若干ですが減少しました。令和3年度の人口は、社人研(国立社会保障・人口問題研究所)の推計人口を上回り、概ね多摩市の目標(将来展望人口)どおりに推移しています。

■ 基本目標1：多様な働く場・働き方を実現し、安心して働くことができるまちをつくる

数値目標	現状値 (令和元年度)	実績値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)	達成率
①従業員数※1	60,945人 (男性:28,475、女性:32,044)	—	61,000人	—
②事業所数※1	4,718事業所 (新規:1,216、廃業:606)	—	4,720事業所	—
③法人均等割納税義務者数	3,767法人	3,837法人	3,862法人	73.7%

※1 経済センサスの調査対象外年度のため記載無し

●出典 ①・②総務省「経済センサス」 ③市町村民税の納税義務者等に関する調（総務省）

多摩市まち・ひと・しごと創生
総合戦略検討委員会からの評価

B

「①従業員数 ②事業所数」は調査実施がなく、数値目標から成果を測ることは難しいですが、基本目標1で掲げる「多様な働く場・働き方を実現」や「創業・ビジネス支援」で目標値を達成するなど、各事業の内容や進捗状況から評価を「B」としました。

トピックス

事業者グループ連携支援事業補助金を交付しました！

市内に事業所（事務所・店舗等）を有する中小事業者等 3 社以上が連携し、新型コロナウイルス感染症と共存・共生する社会に則し、新たに販路拡大・業態転換、既存事業の改善等を実施する事業として、移動型商店街や食事宅配代行サービス事業に補助金を交付しました。



■ 基本目標2：まちの魅力を高め、これを発信し、多摩市に関わる人を増やす

数値目標	現状値 (令和元年度)	実績値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)	達成率
①20歳～29歳の転入超過人口 (5年間累計・日本人のみ)	△868人 (平成27年～令和元年)	△140人 (令和2年)	△500人 (令和2年～令和6年)	28.0%
②30歳～49歳の転入超過人口 (5年間累計・日本人のみ)	623人 (平成27年～令和元年)	31人 (令和2年)	1,000人 (令和2年～令和6年)	3.1%
③滞在人口率 (20歳台、休日、1月、14時)	0.91倍 (平成31年1月)	0.89倍 (令和2年1月)	0.95倍	△0.02
④滞在人口率 (30歳台、休日、1月、14時)	1.05倍 (平成31年1月)	1.05倍 (令和2年1月)	1.05倍	△0.06

●出典 ①・②住民基本台帳人口移動報告 ③・④ RESAS

多摩市まち・ひと・しごと創生
総合戦略検討委員会からの評価

B

基本目標2は、特に新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、各実績では目標を大きく下回りましたが、コロナ禍においてもまちの魅力発信やシティセールスを推進できていたことから評価を「B」としました。

トピックス

聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画が進行しています！

令和2年3月に国土交通省の「かわまちづくり支援制度」に計画登録した「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり」は居心地の良い水辺空間づくりを進め、街の魅力向上や回遊性の向上を図ります。令和2年度には大型屋外用エアスクリーンを用いた映画祭を実施するなど、計3回の社会実験を実施しました。



【評価基準】 ※目標値に対し、1年目は20%、2年目は40%、3年目は60%、4年目は80%、5年目(今回)は100%に達しているかどうかで判断

○評価A: 目標値を達成することができた。(令和2年度の実績が目標値の20%超)

○評価B: 目標値の達成に向けて、概ね進んだ。(令和2年度の実績が目標値に対して、達成度が12%以上～20%未満)

○評価C: 目標値の達成に向けて、順調に進まなかった(令和2年度の実績が目標値に対して、達成度が12%未満)

※ただし、実績値が現状値に対して下回っている場合の達成率の表記は、実績値と現状値の差分をポイント表示している。

■ 基本目標3 : 多摩市で産み、育てたいと思えるまちをつくる

数値目標	現状値 (令和元年度)	実績値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)	達成率
①平成31年1月1日時点と比較した年少人口(毎年1月1日時点)数	17,258人 (参考:令和2年1月1日)	16,923人 (令和3年1月1日) △335人	1,000人減に留める	33.5%
②「多摩市は子育てがしやすいまちだと思いますか」の設問に「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と答える子育て期の市民の割合※2	72.7%	-	75.0%	-

※2 多摩市政世論調査の調査対象外年度のため記載無し

●出典 ①住民基本台帳 ②多摩市政世論調査

多摩市まち・ひと・しごと創生
総合戦略検討委員会からの評価

B

コロナ禍の影響を受けて、「子育て広場事業への利用者」や、「ファミリー・サポート・センターの利用・提供会員数」については目標値を下回りましたが、「包括的な支援体制の構築」や「待機児童対策」に関する目標値を達成しており、各事業の内容や進捗状況から評価「B」としました。

トピックス

「にゃんとも子育てLINE」が配信開始されました!

「にゃんとも子育てLINE」は、妊娠中の方、3歳未満のお子さんを子育て中の方や、そのご家族やパートナーの方を対象とした、多摩市の子育て情報配信LINEアカウントです。登録することで、妊娠期・子育て期のタイムリーなアドバイスや多摩市の子育てに関する情報を無料で配信されます。安心して子育てができるようにサポートしますので、是非ご利用ください。



■ 基本目標4 : ひとりでも安心して暮らし続けられるまちをつくる

数値目標	現状値 (令和元年度)	実績値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)	達成率
①65歳健康寿命 (東京保健所長方式・要支援1以上)	男性:82.79歳 女性:83.97歳 (平成30年)	男性:82.89歳 女性:84.21歳 (平成31年)	男性:83.89歳 女性:84.37歳 (令和5年)	9.1% 60.0%
②「あなたは総合的にみて、多摩市は住みよいまちだと思いますか」の設問に「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と答える市民の割合※2	86.7%	-	90.0%	-

※2 多摩市政世論調査の調査対象外年度のため記載無し

●出典 ①東京都福祉保健局 ②多摩市政世論調査

多摩市まち・ひと・しごと創生
総合戦略検討委員会からの評価

B

「自主防災組織数」は目標値を下回りましたが、「地域介護予防教室数」や「地域主体のプラットフォームの設置エリア数」に関する目標値を達成しており、各事業の内容や進捗状況から評価「B」としました。

トピックス

「(仮称)地域委員会構想」のモデル事業を実施しました!

多摩市では、無理なく持続可能で、いつまでも住み続けたいと思える地域づくりを目指し、共働きや子育てなどで忙しい方々が地域の活動に参加できるしくみや、多くの世代の声を地域に活かすしくみを、地域の方と一緒に検討していきます。



■ 横断的な目標 1：多様な人材の活躍を推進する

A

数値目標	現状値 (令和元年度)	実績値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)	達成率
大学・企業等との連携事業、プロジェクト数	26件	28件	35件	22.2%

■ 横断的な目標 2：新たな時代の流れを力にする

A

数値目標	現状値 (令和元年度)	実績値 (令和2年度)	目標値 (令和6年度)	達成率
新たな技術を活用した企業数、サービス数	—	2件	5件	40.0%

多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会からの主な意見

【令和2年度の評価について】

○令和2年度の事業について

- ・子育て応援ギフトや面接予約の電子申請化により、コロナ禍においても妊婦面接率の数値が向上していることは評価できる。
- ・待機児童に関しては、保育園の新設による対策を行っているものの、産み控えなどの影響もあるかもしれないため、コロナ禍においては評価が難しい項目だと感じた。
- ・ネットなどを活用することでワクチン予約の効率化、避難所混雑状況の見える化などは、今後も積極的に取り組んでいただきたい。
- ・コロナ禍の影響によるイベントなどで人を集められず、評価が下がってしまうのは仕方ない状況だと感じている。

○その他

- ・SNSは興味がない情報でも自動的に流れてくるものであり、HPは興味を持った人がアクセスし、能動的に情報を入力するものである。
- ・若い世代にはネット上の口コミにより情報が爆発的に拡散していくことがあるので、有効的に使えると良いと考える。

講評（多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会 中庭 光彦 委員長）

令和2年は、コロナ禍が始まった年です。4月には緊急事態宣言が発出され、「三密回避」や「テレワークの推進」といった言葉が使われ始めました。この講評を書いている令和4年1月末では、この言葉にも慣れてしまいましたが、コロナ禍により人々の生活行動は大きく変わりました。コロナ禍の最中に、マスクをつけないで会議をしていた令和2年につくった計画の進み具合を評価することに、委員みんなが違和感を覚えながらも将来を見据えて評価しました。

この違和感は委員、そして市民だけが感じたものではありません。国も、これまでの地方創生が目指した人口増・東京一極集中是正という目的を強調なくなり、コロナ後を見据え新たなデジタル産業社会(DX)づくりを目指すようになり、地方創生が目指す意味も毎年バージョンアップされています。

そのような中で、多摩市は東京一極集中の恩恵を被り、人口減少は回避できています。働く場、滞在人口、子育てしやすいか、健康に暮らせるか、どれも目標に近づいています。

私はこの意味を、「コロナ禍後の暮らしの変化について考える余裕は保たれている」と一言で表したい。

この余裕をチャンスにするかどうかは、市民・企業のアイデア次第で、その余裕がまだあるという意味です。

聖蹟桜ヶ丘の再開発は進んでおり、令和4年秋には入居が始まり、転入者数増が見込まれます。商業施設の滞在者数も増えるでしょう。また、多摩市の教育も先進的として注目を浴びています。進む高齢化の中で、いかにコロナ禍後の暮らしをつくるかは、みなさんのアイデアにかかっています。

東京23区からの転出人口増加がニュースとなっています(1月29日)。テレワークの増加や所得減少者が安い住宅に移動しているようです。移動先は多摩地域、神奈川、埼玉、千葉といった場所です。多摩市が依然として暮らしの場として潜在的な魅力をもっていることは変わりません。

コロナ禍後のまち・ひと・しごと創生総合戦略にどのような内容を盛り込むか？余裕をチャンスにするアイデアを提案するのは多摩市に関係する人々みなさんです。みなさんの活発な参加をお待ちしています。

多摩市役所企画政策部企画課 令和4年3月発行

所在地：〒206-8666 東京都多摩市関戸6-12-1 電話：042-338-6813 FAX：042-337-7658

多摩市公式ホームページ：<https://www.city.tama.lg.jp/>（詳しい情報はこちらからご覧ください。）